

成果の説明書

(氏名) 山本 芳弘	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 再生可能エネルギーを地域で有効活用するための制度についての研究</p> <p>固定価格による再生可能エネルギー電気の買い取り (Feed-in Tariff、FIT) は、日本では特に太陽光発電の普及に大きな効果を発揮している。ところが、発電された電力は送電線を通して電力会社に販売されるため、設置地域への効果はあまり期待できない。そこで、地域資源である再生可能エネルギーを地域のために有効活用できるような新たな制度についての研究に着手した。</p> <p>まず、先進事例としてドイツやデンマークをとりあげ、再生可能エネルギー協同組合に関する文献調査を行った。次に、同様の制度を日本でも適用できないかと考え、群馬県中小企業団体中央会、福島県中小企業団体中央会、福島太陽光発電企業組合などを訪問しインタビュー調査を行った。その結果、現行の制度下では難しいことが判明した。これを踏まえ、地域で再生可能エネルギーを有効活用するための方策について、経済学や社会学などいくつかの観点から考察した。研究成果は、国際会議 (14th World Renewable Energy Congress、ルーマニア) で発表した (会議後、発表論文を予稿集に掲載することを推薦されたので、加筆修正して投稿した)。</p> <p>(2) 従来からの研究のまとめ</p> <p>住宅用太陽光発電設備の普及策である FIT と設置補助金について、最適な組み合わせを検討した。従来からの研究に、離散変数モデルの精緻化、数値シミュレーションの実施、連続変数モデルの開発、経済学的基礎付けなどの改良を加えた上で、投稿論文にまとめた。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>(1) 第 32 回本学公開講座「環境政策の新展開」での講演</p> <p>本学地域科学研究所「環境政策の新展開」プロジェクト (2013-2014 年度) の成果を公表するため、上記連続講演会のひとつとして「再生可能エネルギー普及のための政策」を講演した。普及政策の解説と私の最新研究の紹介を行った。</p> <p>(2) 群馬県環境資源保全協会ブロック研修会での講演</p> <p>同協会からの依頼で、「再生可能エネルギー政策の進展」というタイトルで講演した。再生可能エネルギーに関する基礎知識ならびに推進策の現状と展望を解説した。</p> <p>(3) 群馬県中之条町「地域創生実現プラン検討協議会 (環境省：低炭素・循環・自然共生地域創生実現プラン策定事業)」委員</p> <p>全国初である自治体設立の中之条電力を中心に再生可能エネルギーを地域で有効活用する方策について、複数回にわたり議論した。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>(1) 再生可能エネルギー普及策に関する研究のまとめ</p> <p>これまで再生可能エネルギー普及策を研究してきた。特に FIT について、買い取り範囲、オピニオン・リーダーシップ、設置補助金との組み合わせなどの観点から分析した。これらの再検討と新たな事項の追加を行い、全体をまとめることに着手する。</p> <p>(2) 従来からの研究の展開</p> <p>再生可能エネルギーが送電線網に流れ込むことで生じる技術的課題を緩和するような経済インセンティブの設計、バイオマス利活用事業に対する政府介入の効果についての分析、再生可能エネルギーを地域で有効活用するための方策など、現在進行中の研究を進め新たな研究成果を得る。</p>	